

## 報



## 會

會 岳 山 本 日

4

月 二 年 六 和 昭

## 二十六年を迎へて

日本山岳會も成年になつてお目出度う、とお祝ひの言葉を英國山岳會で聞いたのも、つひ此の間の事の様思つてゐるが、創立二十週年の際の事だから、もう六年の昔になる。

その日本山岳會が、昨年の暮には、二十五週年の記念祭を催したのだ。二十年目に成年のお祝の言葉を受けたのだから、二十五年と云へばそろ／＼仕事を始める時期に例へてもいゝだらう。事實社會も亦、日本山岳會にそれを切實に要求してゐるのだ。

山岳の記念號に掲載せられた二十五年の回顧録を讀んで、日本山岳會の過去の歩みを考へる時、却つてその順調なる發達の跡に驚いた位である。若し近い過去に稍も我々の期待する所と距つた所があつたとすれば、それも亦日本の登山界に盡すべき嘗つての目的を山岳會が果し終へて、何か新しき者を模索してゐたとも考へられやう。今一度人生に比較して見れば、成年期に於て人の感ずる所の心の動搖とも喩へ得やうか。

山岳の十週年記念號、そして更に二十五週年記念號、此の二冊を前にして、交々對照して見る時、興味ある變遷を其處に見出すであらう。山へ登る事それ自身が、社會一般から無益なる事として、或は不可思議なる事と思ひなされてゐた時代に、極く少數の先驅者に依つて果敢にも作り上られた日本山岳會には登山といふことの存在を社會に認めさせる事が何よりの使命であつた。十週年を迎へた時、漸く登山の氣運が一般に動きかけて來てゐるのを知るであらう。更に二十五週年を迎へて、當時の人々は今更の様に、登山が如何に盛になつたかに就て驚きの目を見張つてゐる。

日本山岳會が嘗つて目的としてゐた所は、斯の如く豫期以上の結果を此の二十五年の間に持ち來す事となつた。日本山岳會の少數の人達が先頭に立つて社會を引張つてゆくといふ、その時代はもう過ぎ去つたと見るべきであらう。

では日本山岳會は二十六年を迎へて、今后如何にゆくべきか。今日の登山界の隆盛を作り上げた以上、その目的既に終れりとして、退くとするならばそれは最早此處に問題とすべきではあるまい。若し日本山岳會存在の意義を將來に見出さうとするならば、我々は一步を進めて、此の年々盛ならんとする日本の登山界をして、更に深く根を張らせる事に努力すべきではあるまいか。漸く社會一般の流行と、その歩調を一にせんとしつゝある登山界を強く引き締める役目を負つて出るものこそ、日本山岳會ではあるまいか。

登山の旗印を先頭に立て、進む時代ではないと考へられる。日本山岳會將來の爲めに、如何なる旗印を探るべきかを云々する事は、眞に時勢を解したものと云ひ得まい。この年一年と増大しゆく、登山界の力強い支持を得る事こそ、今後の日本山岳會の生くべき道であらう。

手を引かずとも日本の登山界は、

ぐんぐんと伸びてゆく力を既にその内に、貯へてゐる。伸びる力を持つものは、出来る丈けあらゆる方面に廣く強く伸びさしてゆく程、美しい實を結ぶ事にならう。此の力の貯蓄を潤渇せしむる事なく、然も常にその正しき發展の爲に使用し得る様に、その内包する力を擴大してゆく所に、今後の日本山岳會の使命があるものと私は思つてゐる。

此の目的を達成するには、各自が惜しむ事なく、共同の目的の爲めに力を借し合はなければならぬと思ふ。各自が進んで智識を集めてこそ、初めて明日の日本山岳會の進歩が期待し得られるのであらう。お山の大将は潔く捨てるべきだと思ふ。第二十六年を迎へた山岳會は我々の山岳會として出發すべきだと思ふ。今後なさるべきあらゆる事業が此の意味に於て具體化される事を望んで止まない。

所感を述べて二十六年の言葉とす  
浦松佐美太郎

二月圖書室當番幹事  
二日 渡邊 四日 藤島

六日 藤田 九日 岩永  
十三日 冠 十六日 木暮  
十八日 横 二十日 松方  
廿三日 松本 廿五日 鳥山  
廿七日 角田

圖書室は以上記載の日の午後五時半頃より開いて居ります。

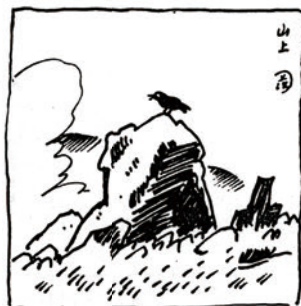
## 會報に就て

一つの新しい試みとして、會報を發行してから、もう第四號となる。係の者が忙しい仕事の、暇々にやつてゐる事として、思ふ程の發達もなし得なかつた。又、心に濟まないと思ひながらも、發行の期日が不定になり勝ちである。之れでも全力は盡してゐることと、同情して戴き度い。唯もう少し暇が出来るやうになつたら思ひ切つて内容を充實さし度いと願つてゐる。

一番痛切に感じる事は、會員の投稿が非常に少いことだ。若し之が意義のある仕事と認められたなら、是非會報をよりよくする様御助力をお願い度い。

## 昭和六年度會費拂込

本年度分會費六圓を二月末日迄にお拂ひ込み下さい。同封振替用紙を利用下さいれば結構です。



## 會務報告

一月十日定例幹事會

出席 評議員一名 幹事九名

一「山岳」バックナンバー値下の件

一二月下旬小集會開催の件

一關西の研究部費用支出承認

### 退會者

昭和五年十二月三十一日付

(六二) 東京府 野口 幽香

同 (九七三) 大阪市 上武幸太郎

同 (九七七) 東京市 葛城 忠二

### 山小屋山案内調査報告

昨秋十月一日附を以て左記の項目に就き北アルプス及南アルプスの一部の關係者に對し問合せ書を發送し具體的意見及び報告を求めました。

### 山案内

1 案内日常の値下 2 割増金制度の廢止 3 各組合の料金統一 4 山案内の小屋宿泊料割引 5 案内、人夫の區別の要否

### 山小屋

1 宿泊料及主要物價の値下 2 案内、人夫の宿泊料割引 3 山小屋冬期使用設備の改善 4 冬期小屋使用料金の徴收の方法及結果 以上

十二月末迄に頂いた回答は約六割強、皆誠意ある意見を披露して下さい

つた事は非常なる喜びであります。個人的意見でありますから一つ一つの發表する事は差控え度いと思ひます。概括的に結果を申し上げます

案内日常 二、三割値下 最低一

圓五〇錢 反對者一名

割増金 反對者半數

宿泊料 二、三割値下 最低一圓

五〇錢

案内、人夫の宿泊料割引 希望するもの多數、二、三割乃至五割右の次第にて、今夏の日當及宿泊料には相當の變動があらうと思ひます、又かくあらん事を我々は希望しております。

### 關西研究部第三回集會

十二月十四日午後七時より京都帝國大學生集會所に於て開催、出席者二十四名。

雪崩に就て第三回目的の研究會を繼續する。當日は主として板狀雪崩の研究方法に就て討議した。

尙當日二種の雪崩調査票を配布しその記載方法其他に就て説明があつた。明春一月各人の今冬に於ける研究を持ち寄る事とし、本年に於ける雪崩研究會は一先づ終了することゝなつた。



### 板倉勝宣紀念書架

圖書室の出來を機會に板倉家から故勝宣氏を紀念するの意味を以て書架寄贈の意を表せられたのは久しい以前の事であるが、今般出來、圖書室の一隅に收められた。新年になつてから圖書室を訪れた會員はその書架を既に見られた事であらうがそれは故人の好みにそぐはしい暗褐色の頑丈なものである。棚の上邊には『故板倉勝宣の紀念に』と美しい

### 二月小集會豫告

二月二十四日(火曜日)午後六時より赤坂三會堂に於て開催「カンチエンジュンガの試登に就て」

浦松 佐美太郎  
松方 三郎

當日は最近に行はれたカンチエンジュンガの登攀に就ての概要並に比較研究を發表する筈である。講演終了後參會者諸氏のデイスカッションのあることを希望してゐる。

(司會者松方三郎)

影りがエーデル・ワイスと一所に施されてある。

昨日のやうにも思はれるが板倉を失つてから既にまる八年になる。而もその損失が年と共に深く我々の心の底に刺すやうに感ぜられて行くのは何としたものであらうか。併し今かうやつて故人を憶ひ出づる一つのしるしを我々の圖書室に收める事の出來た事は何れにしても非常な喜びでなければならぬ。

板倉家の御好意を感謝しつつ、會員諸氏に此の新しい書架の圖書室に加へられたる事を報告する次第である。(圖書室係)

### 圖書基金の創設について

會所有の圖書に安住の地を與へ、且つは會員の來り談すべき會合室を設けたいといふ永年の希望が圖書室維持會員制を生むに至つた事は會員諸氏の知らるゝ通りであります。

圖書室は昨年度に於て維持會員五十九名(口數七十一口)の支持を得、全く當初の豫想以上に設備を整へる

事が出來ると同時に、會の仕事處理して行く上にも此の二つの室は現在の日本山岳會にとつて殆んど欠くべからざる程に重要なものとなつて來た様に考へられます。かゝる所から考へれば圖書室が、前號會報に報告せられて居ります様に、本年度から會の經常的の豫算によつて維持せらるゝ事になつた事は當然の事であるとは思はれますが、何れにしても之は此の計畫を抱き又その計畫に賛同した何人にとつても非常な喜びであらう事を疑ひませぬ。それによつても初めての冒険に對して心厚い支持を賜つた會員諸氏に深い感謝の意を表する次第であります。

併し乍ら圖書室の正體はその内容にあります。圖書室その物の維持が會の會計によつて、保證せられた今日、我々はその内容の充實に精進したいと切に希望して居ります。

圖書基金はかゝる意圖の下に創設せられました。從來の圖書室維持會員制度はその目的を貫徹したものと見て廢せられました。併し改めて、



次の発展のために會は再び會員諸氏の篤志に訴へたいと思ひます。

圖書室維持會員制度が廣く會員諸氏の支持を得たやうに、新しい圖書基金が更に多くの方々の熱心と協力によつて積み上げられ、それによつて立派な日本山岳會の名に相應しい内容の整つた圖書室を育て上げて行く事が出来るやうに祈る次第であります。

陸奥伯よりの寄贈書  
會員木村鐵吉氏を通じて陸奥廣告  
伯より左の圖書の寄贈ありたり。  
The National Geographic  
Magazine 1914-1927  
合計八十八冊

### 陸地測量部新刊地圖目錄

五萬分一地形圖新版

台北8(宜蘭) 台東14(里壠)

蘇澳1(蘇澳)

山口8(防府舊名三田尻)

五萬分一修正版 大分9

(別府舊名湯平)

二萬五千分一地形圖新版

東京近傍1(流山) 5(越ヶ谷)

松山近傍5(菊間) スキー用赤倉近傍圖(一色刷)

同 修正版

横濱近傍8(横濱西部)

同 鐵道補入版

八王子近傍2(所澤) 4(豐田)

5(原町田) 京都近傍12(淀) 神戸

明石海峡近傍3(神戸首部)

一萬分一地形圖新版(二色刷)

東京近傍11(早稲田) 12(四谷)

13(三田)

同 修正版

横濱近傍11(神奈川) 12(横濱)

五萬分一朝鮮地形圖修正版

平壤6(平壤西部)

三角及水準測量成果表新版

高田1(小千谷) 2(十日町)

3(湯澤) 9(柿崎) 10(高田東部)

新潟16(守門山) 飯田1(伊那)

2(赤穂) 3(飯田) 4(時文)

5(木曾福島) 7(妻籠) 8(中津

川) 10(加子母) 13(萩原) 14(下呂)  
岐阜1(白鳥) 5(面谷)

甲府10(韭崎) 15(大河南) 16(赤

石嶽)

高山1(大町) 2(池田) 8(乗鞍

嶽) 10(鹿間) 11(船津) 12(高山)

14(白木峯) 16(三日町)

金澤4(白山) 10(小松) 13(三國)

富山2(糸魚川) 3(小瀧) 4(白

馬嶽) 7(泊) 11(三日市)

七尾2(七尾)

相川11(鷺崎)

村上7(野野町) 8(小國)

長野16(諏訪)

(昭和五年十二月二十八日)



### 山小屋新設

芳ヶ平小屋 群馬縣吾妻郡白根山

麓芳ヶ平(五萬分一地形圖一八三一

米獨立標高點附近)に昨年十月スキ

ー小屋が新設せられた。芳ヶ平小屋

と名付け平屋瓦葺で十二人迄の收容

能力がある。

冬期中小屋番はあないが、中央大

學山岳部の承認と管理者である草津

町一井旅館の市川善三郎氏の了解を

得れば使用出来る事となつてゐる。

使用料は蒲團・米、味噌、燃料代を

含むで一人一泊一圓となつてゐる。

但し十二月中旬より一月上旬まで

と、三月中旬より下旬までは中央大

學山岳部にて専用することとなつてゐる。

北澤スキー小屋 南アルプス仙丈

岳麓、縣營北澤小屋の下流約五十間

の所に新設、二階建二十四坪にして

收容人員は六十名である。宿泊料は

冬期中三食付一圓。使用の際は小屋

主が同行することとなつてゐる。長

野縣上伊那郡美和村戸台へ問合せら

れ度し。

志賀高原丸池ヒュッテ 長野縣下

高井郡平穩村丸池々畔(一四三〇米

突)の地點に新設、收容人員は四十

二名であつて、十二月より四月の上

旬の間は小屋番が滞在すること、な

つてゐる。宿泊料は一泊二食付にて

一圓十錢、宿泊のみは一人五十錢、

團體にて使用の場合は豫め所有者た

る長野電鐵株式會社に申込まれ、ば

割引をする由。

カンチエンジュンガ 一昨年勇敢

なる登攀を試みたバグアリア隊の歴

史は、最近出版せられた彼等の報告

書に鮮に描き出されてゐる。登山史

始まつて以來の壯舉とも稱ふべき彼

等の行動は、息もつかせない程の興

味を以て讀了させられた。

その印象が未だに新しい今、パウ

アーを隊長として再びカンチエンジ

ュンガ登攀隊が組織せられつゝある

との報が届いた。その報道に依れば

六月初旬獨逸を發し、モンレーンの

終末期に近き八月九月の間に登攀を

試みる豫定とある。モンレーン季節

中の登攀は、ヒマラヤに於ける登山

の上に一の問題を提出することとな

らう。ダーズリング地方在住者の言

に依れば、モンレーン中によく二週

間位の間、カンチエンジュンガの上

部が、大空に玲瓏として輝き出るこ

とがあるとのことである。若し此の

事がヒマラヤの高峯がモンレーン季

節に却つて登攀の好機會を與へるこ

とを意味するならば、今夏の來るべ

きバグアリア隊の試みに依つて、そ

の結果が世界に示されることになら

う。その意味よりしても、甚だ興味

ある問題である。

嘗つての彼等の燃える様な熱意を

知らしめられた我々は、此の夏の終

りに齎らさるべき、報道が待ち遠し

い様な氣がする。併しそれと共に深

い淋しさをも感じない譯にはゆかな

い。それは、何時になつたら、日本

からヒマラヤへ登攀隊が送れるのか

といふ事である。

### 圖書基金申込書

昭和六年度圖書基金

口

住所

氏名

日本山岳會圖書係行

東京市芝區

琴平町不二屋ビル

山ある記(一九三〇) 藏前山岳部  
A. Lunn, The Englishman in the  
Alps 2nd ed.  
Bergsteiger Skifahrer Kalender  
1931  
Bauer, Im Kampf um den  
Himalaya  
Smythe, The Kangchenjunga  
Adventure



## 會員通信

I must thank all the members of the J. A. C. who shared in sending that charming and most welcome message of greeting to me on the occasion of your celebration of the 25th anniversary of the foundation of the Club. It was a great surprise to me, but a very pleasant one, and I told the President of the Alpine Club about it. So at the Annual General Meeting a few days later he mentioned it to the Club and I was asked to send a greeting in acknowledgment, which was very warmly endorsed by all present. I am sure that if you had been present and had seen how pleased and friendly they were, it would have given you a great deal of pleasure.

Walter Weston.

### 阿里山より

昨年十二月一日東京を發してより已に六週日、台灣西海岸の平地は、南端のガラパン迄重要な地點は、大抵これを探り候上、高雄州に足を駐め、海拔五六千尺の山地に入り、蕃地にも再三足を入れ候へ共首は依然として無事、尤もこれが平常當然の次第にて、霧社事件の如きは、特に

誘導せし原因なければ、勃發致さるもの、由、蕃人と雖もそう無智なものでもない様に、人情を解せざる者でもない様に候、殊に吾々の見地からは、蕃社を訪ひ蕃人に接せざれば、眞の台灣を見たりと云ひ難き様感じ申し候。

本月五日高雄州を出發臺南に參りて、嚴冬なる可き時期に、九十度といふ時候外れの暑氣に惱まれ、翌日嘉義に一泊、昨七日有名な鐵道にて阿里山に登り、祝山の頂上に立ちて新高を初めとして、中央山脈の尤物に見參し入り候、尤も新高その他は、已に再三遠望候も、目前に聳立する雄姿は今回が最初に候。

登躋の意は勿論初めより有之、大平先生の紀行も再三精讀して、この邊の地理も一通りは頭に入れ、最後の問題は許可の有無に有之、已に舊臘中より新高登山又は八通關越の許可につき當局に交渉致し候も、とうとう拒絶の厄に遭ひ、空しく憾を呑むの外なく遺憾千萬に候、若し兩三年前の如く生駒氏の在るあらばと嘆じ候も、今は如何とぞ致し難く、同氏去り沼井氏も亦外遊中の事として台灣山岳會はその存否さへ疑はしき有様にて、強ひて斡旋をお願いするものも氣の毒な状態につき、もうも

う台灣の高山には縁なきものとあきらめ、再度渡臺の機あるとも金輪際登らぬ事と決定、寧ろ平地の温泉にでも浸りて五體を伸ばした上、サツサと内地に引き上げ、久し振りで雪白の山野に親しみ度く、月末迄には諸君と相見ゆその機ある可しと存じ候

明日より數日東大演習林見物、それから再び暑い下界の人となる筈に候。

### 冬の大井川

武田久吉

出来れば惡澤が赤石の登攀をも試みたいと思つて出かけました。眺山の旅ともつかず、冬山登攀ともつかないこの一週間の旅は、靜岡より始まつて、その日は、(十二月十三日)大井川の水呑茶屋に泊り、翌日峠上から赤石連峰を眺めて大井川に降り田代で泊り、十五日には大井川の奥樺島まで溯りました。田代から樺島迄約八里半、日の短い冬の一日の行程としては可なり一杯です。大井川のことについては私は云ふことを控えます。もう上流の東俣西俣の出合まで、美林を伐採しつくされたこの谷筋は、然も水力電氣に谷水の大きな部分を攫取された跡のこの溪谷は、老廢した偉人のやうな惨さがあります。過去の太井川を喜んだ私にはある處は實際目をつぶつて歩きたかつたのです。私は今日ではこの谷を奥山に登る爲の道筋としてのみ珍重するだけです。

樺島では一日山上から烈風がなだれ込む、すさまじい吹雪に逢ひました。樺島には雪は五寸程、そしてその上流三里の二軒小屋には一尺餘の積雪を見ました。その翌日十二月十七日には、もう餘日がないのと、深い雪、今年こそ例年にない深い雪だつたのです。その爲に赤石の小屋も千枚の小屋も泊ることがむづかしいので、日歸りの豫定で赤石の東尾根を登つて見ました。登るに従つて雪

は深くなる。白檜帶の上部では四尺位になり歩速は鈍る、身體は冷える、正午まで登つて赤石、兎、聖、上河内の烈風に吹き上げらる、雪煙の中にむせぶ壯麗な姿を見て下りにつきました。

十八日には樺島から二軒小屋(東電の田代川取入口の小屋)に出て、デック峠の道を上りました。まだ伐採にかゝらないこの附近の森林は随分美しく、樺、五葉、檜などの喬木林の間から、雪山は遠く近くちらついて見えたのが、峠近くになると視界を横に、それはすばらしい惡澤の雄姿が去り出ました。その左奥に雁行して、赤石主峯、聖岳、上河内岳が、午後の日によりめく雪稜の懷に深い影を落してダイヤモンドのやうな美装を連られてゐたのです。私は赤石山脈の山々が大井川谷に向つて最も雄大な懷を展げてゐるのを見て限りなく喜びました。デック峠の眺望こそ今年の山旅で私を喜ばした中の尤なるものでした。

峠を甲州側へ下り、冴えた冬の空の下に、夕日を受けて輝いてゐる富士の麗姿を眺めながら、内河内の道を下り新倉を下つてこの旅行を了りました。

大井川には沼平、樺島、二軒小屋だけには一年中人が留守をしてゐます。物資も豊にあるやうです。田代一沼平四里十六町。沼平一樺島四里四丁。樺島一二軒小屋三里の距離です。それからこの谷筋は三月末から四月初頃が一番危険だと云ふことです。

冠

松次郎

一昨年の夏荒川岳(奥西部河内岳)の南に小屋が出来ました。それは大聖寺平の小屋を移轉する意味で、赤岳會(信州伊那郡大鹿村)の方々の御盡力で出来たのです。以前より安全な良い位置を占めてゐるこの小屋はその維持費として泊る人から一人宛金十五錢の泊り料を求めてゐます。ところがそれについて種々苦情を云ふ登山者があると云ふので、赤岳會の松下胤實氏からその譯を私のところへ通信がありましたので、少しばかり會報を利用して頂きます。泊料金十五錢と云ふのは小屋の維持費、(修繕費)薪代(これは東海紙料會社の木を拂ひ下げて貰つて用ひてゐる焚物の代)、それから小屋番の手當等に充てるのださうです。それですから私の考へでは不當どころでなく、こんな安い泊り料で、こんな不便な所へ良い小屋が出来たことを有難く思つてゐます。かう云ふ小屋が南の方へもつと澤山出来ることをさへ常に希望してやまない者です。苦情を云ふ登山者があると云ふのは何かの誤解がある爲だと思ひます。それでなければ其だしい心得違ひの人達だと云ふより他はありません。私はこの小屋について赤岳會の人達に感謝するもので、決して御構ひなく今迄の方針で御進みにならんことを深く希望するものであります。(冠)

### 一月の苗場山

雪の上越境の山々を歩く度毎に、一度はあの廣い苗場の雪原に立ちたいと憧れておりました。昨秋苗場

山頂に小屋が新設された事を知り、一月の三國街道を訪れました。三國村の二居で天候を覗ひ、四日の快晴に清津川の赤湯へ入り、五日霧と雪を冒して赤倉山より苗場に登り山頂の小屋に一泊、快晴を待つて神樂の峯より三俣村へあの大斜面の滑走を計劃しておりました。處が小屋には燃料が全然なかつたので滞在も出来ず翌六日吹雪の中を再び赤湯へ戻りました。今年のやうに雪の少い、そして一日の山で雨に遭ふといふ年も珍らしいでせう。赤倉山迄はスキーの長いのを感むのみでした。(赤湯―赤倉山約五時間、赤倉山―小屋約四時間)

小屋は三國村二居の雲尾東岳氏が建れたもので、冬期登山者の便宜を計り寝具食料も置いてありますが未完成の爲に二尺程雪が吹込んでゐました。完成の曉には面白い根據地となる事を疑ひません。小屋の位置は苗場山頂三角點の直ぐ側で、二間に十間位のものです。角田 吉夫

### 發 哺 温 泉 から

暮から正月へかけて混み合はない所なと思つてこゝへ來た。雪質は先づ申分ないが何分にも一面の笹では山へ登る氣は起らない。往來で滑つて、あとは湯治といふことにした。信越一帯に雪が少いとみえて、雪の多い所を探し求めて彷徨ひ歩くスキーヤーの群の往來が頻りだ。三日の月夜には北アルプスの連山が素晴らしく光つてゐた。(一月五日信州發 哺温泉にて) 藤島敏男

### ノールウエイ

旅から旅をつゞけて、今は冬の諾威を訪れ、ほんとうに北國らしい氣分の幾日かを過してゐる。二三日ホルメンコレンに行つて久振りでスキーを楽しんだ。流石こゝでは本場だけに轉んでゐる人などないので閉口してゐる。降誕祭頃にはこの邊はスキーヤーで一杯になるさうだ。これから南獨逸を経てオーストリーへゆく。 一九三〇・一二・一六 諾威・ホルメンコレンにて 大島永明

### 編 輯 後 記

今年は是非、此の會報を立派なものに育て上げたいものと思つてゐる。七百名の會員を持つ日本山岳會の會報が、こんな内容では心細いと思ふ。地方在住の會員が多いのだから、もつともつと、地方色のある投稿がなければいけない。非常な勢で伸びつゝある日本の山岳界だ。今少し此の會報の上に、その勢が反映して來なくては駄だ。それとも事實は、日本の山岳界は唯その外形を廣げた丈で、その内容に於て未だに何ものをも有しないのかしら。此の疑問を提出して置かう。

昭和六年二月十八日印刷  
昭和六年二月二十日發行

發行所  
編輯人

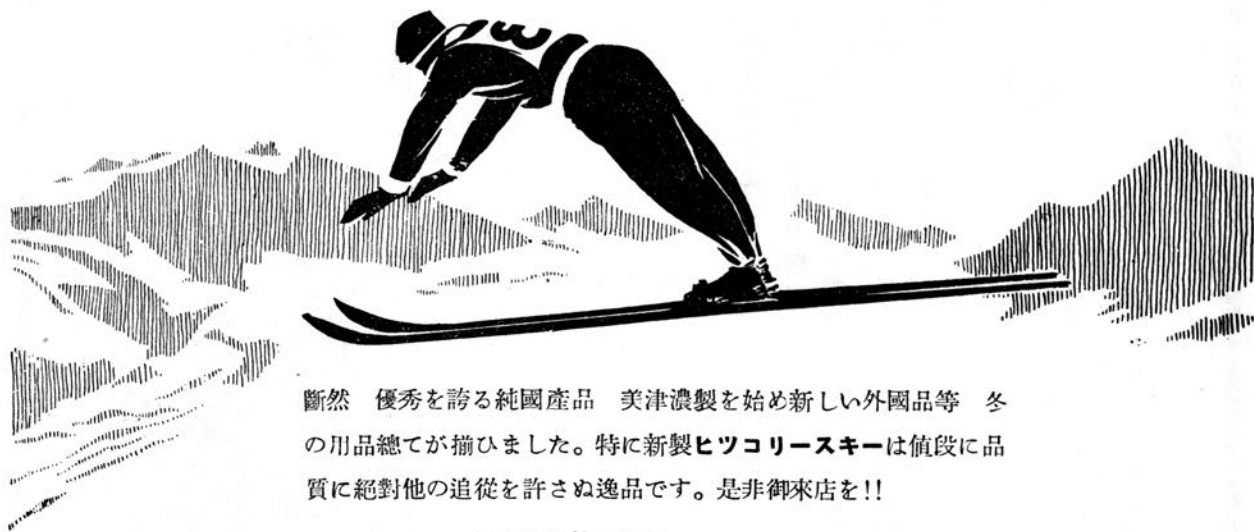
浦松佐美太郎  
東京市芝區平町一  
二丁目ビル

發行所

日本山岳會

(刷印堂明開)

# 美津濃のスキー スケート用品



斷然 優秀を誇る純國産品 美津濃製を始め新しい外國品等 冬の用品總てが揃ひました。特に新製ヒツコリースキーは値段に品質に絶對他の追従を許さぬ逸品です。是非御來店を!!

一揃 (スキー・緯具・杖) ¥ 10.00 スキー賣出  
(帽子・手袋)

大 阪 淀 屋 橋  
東 京 小 川 町  
神 戸 元 町 通

## 美 津 濃

名古屋 大須門前  
京 都 四 條 通  
大阪南 日 本 橋

燕麥 壓縮

# クエーカーオートツ



ウィンター

スポーツ

禮讚！

無くてはならぬ伴侶

クエーカーオートツ

—— 身體を何時も丈夫に ——

榎有恒氏は、旅行には必ずクエーカーオートツを伴侶とされ、  
總ての登山愛好者に之を推奨されます。

滋養になり、身體を強健にする食物として

クエーカーオートツは正に天下無敵！

クエーカーオートツは壓縮して空氣を斷つた罐に入り、絶対に人手に觸れてをりません、携帯に至極便利で、長い險阻な旅行にも、苦勞なく御持參出來ます。尙調理も極く簡單でクイッククエーカーは僅々二分半で調理出來ます。



全國各百貨店、食料品店  
及び一流樂局にあります

詳細は弊社の小冊子を御一讀下さい。  
大阪市中央郵便局私書函第十一號  
クエーカーオートツ會社 Y.T. 係へ御申  
込の方には小冊子無代進呈致します